

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年6月12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200445		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑五日市八幡		
所在地	広島市佐伯区八幡5丁目16番地10号 (電話) 082-927-8400		
自己評価作成日	令和元年 5月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200445-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200445-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年 6月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当グループホームは五日市駅から北方向に3.5mほどの閑静な住宅街にあります。中庭には花壇・野菜畑があり、現在はさつまいも・きゅうり・とうもろこし・冬瓜を植え育てています。利用者様は毎日成長を目にされ、いつ食卓にのるか楽しみに待っておられます。3度の食事は楽しみの1つ、又「生きる力」でもあります。食事はすべてスタッフの手作りを提供し、健康保持に努めております。また、利用者様にも料理に参加していただくこともあります。台所からの匂いや音などご自宅と同様に穏やかな雰囲気与生活していただけるようにしております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・食事は利用者の楽しみであり、「おいしい料理」を毎日、手作りで提供している。</li><li>・中庭にある菜園で野菜を作り、利用者と一緒に収穫して料理に利用している。天候が良い時には近隣を散歩し、花のきれいな家を訪問し、会話を楽しんでいる。</li><li>・利用者の安全を確保する為に、毎月、夜間を想定した避難訓練と利用者も参加する日中の訓練を行い、災害に備えている。</li><li>・利用者の人格尊重と不適切なケア防止のための「虐待の芽チェックリスト」を用いて全職員が自己評価を行い、業務の見直しを行っている。</li><li>・「端午の節句」「アジサイ祭り」などの毎月の行事を企画し、利用者と一緒に楽しんでいる。</li></ul>
--

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝の申し送り時に 出勤職員全員で唱和し、常に「理念」に添ったケアができるように努めている。	法人理念の下に事業所理念があり、理念は事務所に掲示され、申し送り時に唱和し理念を共有している。理念が実践されているかについては、毎月のスタッフ会議で振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており、町内の行事「もちつき大会・ぜんざい会」等に参加させていただいている。秋祭りの子供みこしに苑玄関前まで来てもらい利用者様と町内の子供さん達と交流を楽しまれている。	町内会に加入し町内会の会議にも出席している。また町内会行事の「もちつき大会」「ぜんざい会」に利用者が参加し、秋祭りの神輿が事業所に立ち寄る際には、子ども達との交流を楽しんでいる。近隣の散歩では、元職員の家に立ち寄って花を觀賞したり、地域住民と会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会の方、民生委員さんに運営推進会議に出席して頂いて認知症の方々への理解やホームでの生活を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では出席して頂いた地域の方、ご家族様より一言ずつお話をさせて頂き、スタッフ会議で全員に伝達しサービス向上に役立っている。	地域包括支援センター、地域代表、家族が参加して定期的に運営推進会議を開催している。管理薬剤師による「薬を飲むときの注意」など講師による講演会が毎回行われ、参加者と意見交換している。しかし、参加者からの提案が事業所のサービスに反映されたことが少なく、活発な意見交換が期待される。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協働関係を築くように取組んでいる。	2ヶ月に1回の運営推進会議に地域包括支援センターの方へ出席して頂き、苑での状況やケアの報告をし、アドバイスを頂いている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、意見交換を行っている。また、地域包括支援センターが主催する勉強会に参加して、現場に役立つ情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は基本的に行っていない。玄関の施錠に関しては車の往来等のためにやむをえず行っているが、中庭の扉に関しては開放し自由に出入りして頂いている。	3か月に1回、身体拘束に関する事業所内研修を行い、外部研修に参加した職員による「身体拘束の伝達研修」を実施している。車椅子に長時間座らないよう配慮し、センサーマットの使用は家族の了解を得ている。中庭へは自由に出入りできるが、玄関は、車の往来に配慮して施錠している。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	3ヶ月に1回施設内で職員を対象に研修を行っている。また、毎月のスタッフ会議では「虐待の芽チェックリスト」を記入し自分のケアを見つめなおしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会の伝達報告について情報を共有している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時は管理者・計画作成担当者が十分な時間を取り説明を分かりやすく行っている。理解・納得していただけるように努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時にはご家族様に声をかけ利用者様の支援方法を報告・相談し、頂いた意見はケアに反映させている。	家族が面会に来られた時や行事に参加した際、運営推進会議後の「家族会」で、家族の意見・要望を聞いている。家族からの要望で「利用者の名前を書く練習」を行い、職員の名札を肩につけることが実施された。	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月定期的に行うスタッフ会議に代表取締役の出席を仰ぎ職員からの意見を聞き運営に役立てるように努めている。</p>	<p>毎月のスタッフ会議で職員の意見を聞いている。職員の提案で「毎日の日誌」の簡素化について検討したこともある。また、居室のエアコンの清掃を専門業者が定期的に行うようになった。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>日頃の仕事への取り組みを考慮し、職員の向上心を上昇させるよう、この4月より改定を行いました。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員に必要な研修を受講できるよう配慮している。受講後はスタッフ会議で全職員に伝達している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>佐伯区グループホームネットワークに参加している同業者と情報交換を行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前、入居時、ご本人様と面談を行い、不安や要望等があった際、納得して頂くまで傾聴し安心して生活して頂ける関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安なく入居して頂けるように面談・電話等で伺う機会を多く持ち、相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様の「ADL」「思い」を正確に把握することに努め、今のケアで良いのか総合的に考え一番適切なサービスを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で利用者様と一緒に食事の下ごしらえ・洗濯・掃除等行いながら職員との関わりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や毎月の職員からのお便りで日頃の利用者様の様子を報告し、ご家族様と共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前の住居のご近所の方が来苑され、おしゃべり等で楽しい時間を過ごされている。その土地の土産物にも懐かしさで喜んでおられる。	利用者の知人が訪問された際には、お茶やお菓子で歓迎している。家族への年賀状は、それぞれの利用者が工夫して作成後、職員が宛先を書いて投函している。	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者様同士が悩み事を相談したり励まし合ったりされ利用者様同士が支え合いながら生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談や援助にお力になれるよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で本人がどのような暮らしを希望されているか聞いている。言葉に出されない場合は表情を汲み取ったりご家族と相談しながら常に本人本位の支援ができるようにしている。	利用者同士の会話から「利用者の昔の生活」が判明し、問題行動の背景としてケアプランに反映したこともある。「お盆に家に帰りたい」と要望する利用者には、「歩く練習をするケアプラン」を作成し、要望が実現するよう支援したこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用している家族へ生活・介護・医療等いろんな面を聞いて本人様のこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化をしている利用者様の状況を毎日の申し送りで報告・記録し職員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・ご家族の意向・本人の日常生活・動作を汲み入れ、現状に即したケアプランを作成し、担当者会議で本人・ご家族・介護職員・看護師で共に検討し、本人主体のケアプランを作成している。</p>	<p>各利用者の「ケアプラン実施表」を職員が毎日チェックし、月末には各項目の総括を行う。その後、ケアマネジャーが毎月の総括を参考にしてモニタリングを作成する。担当者会議には介護職員・看護師・ケアマネジャー・管理者が出席し家族も同席してケアプランの見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>看護師・介護職員・ケアマネジャーと共にそれぞれの日々の記録をしている。ケアプラン実施チェック表を作成して気づき等を記入し次回のプラン立案に役立てている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>常に本人の思いに耳を傾け本人主体の支援が行われるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に参加させて頂いている。また町内会の有価資源ごみ収集にも協力させて頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時、苑の協力医の説明を行うと同時に、今までのなじみのかかりつけ医を選ばれることも自由である旨を説明している。協力医とは24時間の連絡がとれ緊急時の対応がとれる体制もしている。日常生活での健康管理も細かく指導を頂いたり必要時の入院先の確保にも安心して相談できるよう支援している。</p>	<p>本人・家族の要望でかかりつけ医を決めているが、今までの主治医・事業所の協力医をかかりつけ医としている。協力医は担当の利用者を月2回往診して利用者の健康状態を把握し、毎日の健康状態は看護師が観察し医師に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>申し送りや日常生活の中で小さな変化があればすぐに看護師に報告している。緊急時にはかかりつけ医の受診や往診を依頼している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医により入院する病院との連携がとられ苑からも本人の日常生活動作の情報提供を行い安心して治療が行える体制作りを整えている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重度化についての説明を行い必要時には入居者様・ご家族様・かかりつけ医・苑で充分話し合いを重ね、今後の方針を決めていくようにしている。</p>	<p>入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」を説明し、要望があれば看取りを行う方針である。重度化した際には、医師が家族に説明し、本人の意志を確認後カンファレンスを行い方針を決める。看護師は、医療行為を行わないとの法人の方針があり、医療依存度が高い利用者は、本人・家族の要望で医療機関に移動している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変・事故発生時には対応できるように職員全員で訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>本社指導の下、夜勤勤務者は防火管理者講習の受講を義務付け、意識の向上を図ると共に、毎月1回は日勤帯・夜勤帯でそれぞれ消防避難訓練を行っている。</p>	<p>「夜間を想定した避難訓練」は、毎月、夜間に行い、夜勤者は、必ず月1回、訓練に参加して災害に備えている。また、利用者も参加する避難訓練を毎月1回、日中に行っている。災害時における地域住民との協力は、近隣住民1名から協力の申し出が出ている。</p>	



自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人お一人の自尊心を大切にさせて頂きながら対応している。 毎月「虐待の芽チェックリスト」を用い1ヶ月の業務を振り返り、見直す場面を設けている。	「人格の尊重とプライバシーに関する研修」は新人研修で行っている。利用者の人格の尊重・不適切なケアの防止のための「虐待の芽チェックリスト」を用いて職員全員が、毎月、自己評価を行っている。自己評価は集計され、スタッフ会議で報告される。今後は出来ていない項目への改善策を検討する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と1対1になる入浴時はくつろいだ気持ちになられ自然に本人の思いをお聞きし出来るだけその思いを具体化できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	センター方式の中で暮らしの情報(私の暮らし方シート)より本人様とご家族様から伺ったなじみの暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1回訪問理美容に来苑して頂いている。ご希望があれば毛染めやパーマ等近所の美容室でおしゃれを楽しんでいただけるように努めている。入浴されシャンプー後の髪のプロロー等も希望に応じている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食職員手作りの食事には栄養バランス、色合い、温かいものは温かく、冷たいものは冷やして召し上がって頂くよう配慮している。食事の下準備や後片付けも利用者様に一緒に手伝って頂いている。	毎日、手作り料理を提供し、朝・夕食は職員が調理し、昼食は調理専門員が担当している。料理の下準備・皿洗いは利用者と一緒にいき、菜園の野菜を料理に利用することもある。クッキーやおやつ作り、年1回の「おやつ外食」と「お好み焼き」の出前を利用者は楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1日の目標水分量を1500mlと決め、職員は目標に向かって工夫に努めている。水分量、食事は記録し、一人ひとりの咀嚼、嚥下状態に合わせた食事形態に対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは必ず仕上げ磨きを行い、清潔保持に努めている。また、定期的に協力歯科医院より口腔ケアと異常の早期発見に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を使用し、排泄リズムを把握し、利用者様ごとのトイレの声かけに努めている。また、適切なパットの使用量・パットの種類の模索に努めている。</p>	<p>排泄チェック表を活用して利用者の排泄リズムを把握してトイレ誘導を行っている。排泄の自立支援として、「パット委員会」の担当者は、夜間に使用するパットについて素材・形状を検討して利用者に適したパットを提案している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事メニューに繊維質が多く含まれる物を取り入れている。毎朝の朝食に乳酸菌を提供し、ラジオ体操、歩行練習を取り入れ、自力排便できるように取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ご希望の時間に入浴できていないが、希望に沿った曜日に入浴する工夫は行っている。入浴に気分が乗られず拒否される方には相性の良い職員が対応し、世間話から始まり、入浴気分になれるよう工夫している。</p>	<p>月曜日から土曜日まで、週2回以上入浴するようにしている。利用者の要望で同性介助とすることもある。また、入浴が嫌いな利用者には、担当者を変えて声掛けするなど工夫して対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>前日の夜勤者よりの申し送りで夜間の睡眠時間に合わせて日中の休息時間も工夫している。お一人おひとりの生活習慣で就寝時間も無理強いせず本人のペースに合わせた支援をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりが内服される薬の名称・数量・薬の情報等を確認し、内服支援している。 内服時は内服支援の職員・確認する職員・利用者様の前で名前・日付の音読み、誤薬事故を防いでいる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>個々の役割や好みの楽しみを日常生活の中で持っていただくように心がけている。天気の良い日には近隣の散歩に出かけ、気分転換をはかっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>行きたい所を日頃の会話の中から把握しており、ご家族の協力を得て出かけられるよう支援している。 天気の良い日は近隣の散歩に出かけている。行事で近所のレストランに外食に出かける支援も努めている。</p>	<p>天気が良い日は出来るだけ散歩するようにしている。近所に住む元職員の花畑に花の見物に行くこともあり、利用者は近隣住民と交流することを楽しみにしている。外食や買い物の要望があれば家族に連絡し対応してもらっている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>現在入居されておられる利用者様からのご希望があれば対応する。 お金は事務所にお預かりし、必要時は使えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自分から手紙を出されることはないが姉妹や姪、お孫様からの手紙は本人に手渡している。 電話の希望があれば職員がかけご本人にお話ししていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関ホールには日常の苑の生活の写真が貼られている。玄関からリビングホールへの通路も190cmと広く、利用者が日中過ごされるリビングホールは南側前面掃き出しの窓ガラスで中庭に自由に入出入りされ季節感を感じながらのんびりと過ごしていただくよう支援している。	玄関にレクリエーションの写真を掲示し、季節の花を室内に飾っている。共有部分の清掃は、毎日、職員が行うが、週に3-4回、専門の清掃員が担当し施設内を清潔に保つよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室で自由にゆっくりされる空間にリビングホールで気の合う利用者様とお茶や食事されたりする空間を過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはなじみの家具や写真等を飾って頂いている。ご自分の家と同様に居心地よく過ごせるように工夫している。	今まで使用していた馴染みの家具を持ち込み、猫好きな利用者は猫のぬいぐるみと一緒に過ごし、レクリエーションで作った作品は居室に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビングは車椅子やシルバーカー等自由に移動できる十分な広さを確保している。通路にはすべて手すりが設置され、トイレ内にはファンレストテーブルを設置し、安全性を重視した設計になっている。		

V アウトカム項目( 東ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝の申し送り時に 出勤職員全員で唱和し、常に「理念」に添ったケアができるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており、町内の行事「もちつき大会・ぜんざい会」等に参加させていただいている。秋祭りの子供みこしに苑玄関前まで来てもらい利用者様と町内の子供さん達と交流を楽しまれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会の方、民生委員さんに運営推進会議に出席して頂いて認知症の方々への理解やホームでの生活を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では出席して頂いた地域の方、ご家族様より一言ずつお話をし頂き、スタッフ会議で全員に伝達しサービス向上に役立てている。		
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	2ヶ月に1回の運営推進会議に地域包括支援センターの方へ出席して頂き、苑での状況やケアの報告をし、アドバイスを頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は基本的に行っていない。玄関の施錠に関しては車の往来等のためにやむをえず行っているが、中庭の扉に関しては開放し自由に入出入りして頂いている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	3ヶ月に1回施設内で職員を対象に研修を行っている。また、毎月のスタッフ会議では「虐待の芽チェックリスト」を記入し自分のケアを見つめなおしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会の伝達報告について情報を共有している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時は管理者・計画作成担当者が十分な時間を取り説明を分かりやすく行っている。理解・納得していただけるように努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時にはご家族様に声をかけ利用者様の支援方法を報告・相談し、頂いた意見はケアに反映させている。		



自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月定期的に行うスタッフ会議に代表取締役の出席を仰ぎ職員からの意見を聞き運営に役立てるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日頃の仕事への取り組みを考慮し、職員の向上心を上昇させるよう、この4月より改定を行いました。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員に必要な研修を受講できるよう配慮している。 受講後はスタッフ会議で全職員に伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	佐伯区グループホームネットワークに参加している同業者と情報交換を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前、入居時、ご本人様と面談を行い、不安や要望等があった際、納得して頂くまで傾聴し安心して生活して頂ける関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安なく入居して頂けるように面談・電話等で伺う機会を多く持ち、相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様の「ADL」「思い」を正確に把握することに努め、今のケアで良いのか総合的に考え一番適切なサービスを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で利用者様と一緒に食事の下ごしらえ・洗濯・掃除等行いながら職員との関わりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や毎月の職員からのお便りで日頃の利用者様の様子を報告し、ご家族様と共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前の住居のご近所の方が来苑され、おしゃべり等で楽しい時間を過ごされている。その土地の土産物にも懐かしさで喜んでおられる。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者様同士が悩み事を相談したり励まし合ったりされ利用者様同士が支え合いながら生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談や援助にお力になれるよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で本人がどのような暮らしを希望されているか聞いている。言葉に出されない場合は表情を汲み取ったりご家族と相談しながら常に本人本位の支援ができるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用している家族へ生活・介護・医療等いろんな面を聞いて本人様のこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化をしている利用者様の状況を毎日の申し送りで報告・記録し職員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・ご家族の意向・本人の日常生活・動作を汲み入れ、現状に即したケアプランを作成し、担当者会議で本人・ご家族・介護職員・看護師で共に検討し、本人主体のケアプランを作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>看護師・介護職員・ケアマネージャーと共にそれぞれの日々の記録をしている。ケアプラン実施チェック表を作成して気づき等を記入し次回のプラン立案に役立てている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>常に本人の思いに耳を傾け本人主体の支援が行われるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に参加させて頂いている。また町内会の有価資源ごみ収集にも協力させて頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時、苑の協力医の説明を行うと同時に、今までのなじみのかかりつけ医を選ばれることも自由である旨を説明している。協力医とは24時間の連絡がとれ緊急時の対応がとれる体制も行っている。日常生活での健康管理も細かく指導を頂いたり必要時の入院先の確保にも安心して相談できるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りや日常生活の中で小さな変化があればすぐに看護師に報告している。緊急時にはかかりつけ医の受診や往診を依頼している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医により入院する病院との連携がとられ苑からも本人の日常生活動作の情報提供を行い安心して治療が行える体制作りを整えている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化についての説明を行い必要時には入居者様・ご家族様・かかりつけ医・苑で充分話し合いを重ね、今後の方針を決めていくようにしている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変・事故発生時には対応できるように職員全員で訓練を行っている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	本社指導の下、夜勤勤務者は防火管理者講習の受講を義務付け、意識の向上を図ると共に、毎月1回は日勤帯・夜勤帯でそれぞれ消防避難訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人お一人の自尊心を大切にさせて頂きながら対応している。毎月「虐待の芽チェックリスト」を用い1ヶ月の業務を振り返り、見直す場面を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と1対1になる入浴時はくつろいだ気持ちになられ自然に本人の思いをお聞きし出来るだけその思いを具体化できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	センター方式の中で暮らしの情報(私の暮らし方シート)より本人様とご家族様から伺ったなじみの暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1回訪問理美容に来苑して頂いている。ご希望があれば毛染めやパーマ等近所の美容室でおしゃれを楽しんでいただけるように努めている。入浴されシャンプー後の髪のプロロー等も希望に応じている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食職員手作りの食事には栄養バランス、色合い、温かいものは温かく、冷たいものは冷やして召し上がって頂くよう配慮している。食事の下準備や後片付けも利用者様に一緒に手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1日の目標水分量を1500mlと決め、職員は目標に向かって工夫に努めている。水分量、食事は記録し、一人ひとりの咀嚼、嚥下状態に合わせた食事形態に対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは必ず仕上げ磨きを行い、清潔保持に努めている。また、定期的に協力歯科医院より口腔ケアと異常の早期発見に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を使用し、排泄リズムを把握し、利用者様ごとのトイレの声かけに努めている。また、適切なパットの使用量・パットの種類の模索に努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事メニューに繊維質が多く含まれる物を取り入れている。毎朝の朝食に乳酸菌を提供し、ラジオ体操、歩行練習を取り入れ、自力排便できるように取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ご希望の時間に入浴できていないが、希望に沿った曜日に入浴する工夫は行っている。入浴に気分が乗れず拒否される方には相性の良い職員が対応し、世間話から始まり、入浴気分になれるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目( 西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	前日の夜勤者よりの申し送り で夜間の睡眠時間に合わせて日 中の休息時間も工夫している。 お一人おひとりの生活習慣で 就寝時間も無理強いせず本人 のペースに合わせた支援をして いる。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	一人ひとりが内服される薬の 名称・数量・薬の情報等を確認 し、内服支援している。 内服時は内服支援の職員・確 認する職員・利用者様の前で 名前・日付の音読み、誤薬事 故を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	個々の役割や好みの楽しみを 日常生活の中で持たせていただ くように心がけている。 天気の良い日には近隣の散歩 に出かけ、気分転換をはかっ ている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。	行きたい所を日頃の会話の中 から把握しており、ご家族の 協力を得て出かけるよう支援 している。 天気の良い日は近隣の散歩に 出かけている。行事で近所の レストランに外食に出かける 支援も努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	現在入居されておられる利用 者様からのご希望があれば対 応する。 お金は事務所にお預かりし、 必要時は使えるようにしてい る。		



自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自分から手紙を出されることはないが姉妹や姪、お孫様からの手紙は本人に手渡している。 電話の希望があれば職員がかけご本人にお話ししていただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関ホールには日常の苑の生活の写真が貼られている。玄関からリビングホールへの通路も190cmと広く、利用者が日中過ごされるリビングホールは南側前面掃き出しの窓ガラスで中庭に自由に出入りされ季節感を感じながらのんびりと過ごしていただくよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室で自由にゆっくりされる空間にリビングホールで気の合う利用者様とお茶や食事されたりする空間を過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはなじみの家具や写真等を飾って頂いている。ご自分の家と同様に居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビングは車椅子やシルバーカー等自由に移動できる十分な広さを確保している。通路にはすべて手すりが設置され、トイレ内にはファンレストテーブルを設置し、安全性を重視した設計になっている。		

V アウトカム項目( 西ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑五日市八幡

作成日 令和1年7月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に出席されるご家族様がいつも固定されがちである。	ご家族様全員に参加の声掛けをする。	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1年に6回開催する会議のうち、どこが参加可能であるかを伺う。</li><li>・ ご家族に会議議事録を送付し情報を提供し、関心・興味を持っていただく。</li><li>・ 参加不可能の方は要望・意見を頂く。</li></ul>	1年
2	49	日常の散歩について、以前は数人で楽しく歩行されていたが、足が悪い方が増えたため、スタッフと1対1の散歩のため回数が減ってきている。	散歩コースを近隣に変更し、全員が出かけられるようにする。	安全に移動できるよう、コースの確認を行う。歩行が難しい方は車椅子を使用する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。